



雨水利用を進める全国市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

H.P: <http://www.rain-water.org/>

日本水大賞を受賞!



5月30日(木)、授賞式に参加しましょう

3月18日、「第4回日本水大賞」で、私たちの雨水プロジェクトが、日本水大賞(グランプリ)を獲得しました。

日本水大賞は、日本水大賞顕彰制度委員会(委員長:高橋裕東京大学名誉教授)が主催、国土交通省、環境省、厚生労働省、読売新聞社などが後援して、毎年行われています。水環境、水資源、水文化、水防災及び、これらに関する国際的な連携・技術協力、学会活動が対象となり、今回で4回目を迎えます。今回の応募者は、学校、行政、

企業、個人、団体等200件を超えました。その中から私たちが応募した「革新的雨水プロジェクト」(次ページ参照)がグランプリに選ばれ、副賞に100万円をいただくことになりました。

大賞を受賞した市民の会の会員は、表彰式に自由に出席できます。あらかじめ申し込みが必要ですので、参加ご希望の方は、事務局までファックスで申し込んでください。水大賞の詳細については、日本河川協会のホームページをご覧ください。
(<http://www.japanriver.or.jp>)

日時：5月30日(木)

開 場 12:00

表 彰 式 13:00~14:00

受賞活動の発表 14:10~16:00

場所：「科学技術館」サイエンスホール(地下2階)

交通：営団地下鉄東西線「竹橋駅」

又は東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下駅」

下車徒歩7分



あなたはどのタイプで行きますか...



とにかくフィーバー



何が何でもアフター



苦勞の連続? ウルウル...

日本水大賞に応募した
活動の概要

『革新的雨水プロジェクト』とは

「日本水大賞グランプリおめでとうございます」。3月19日、こんな吉報が事務局に飛びこんできました。審査した日本水大賞顕彰制度委員会事務局の紀陸（きりく）さんによれば、今回の応募件数は236件で、応募してきたものをテーマ別に分けると、水環境204件、水文化74件、水資源59件、水防災19件（一部重複）だったそうです。

なぜ、タイトルが『革新的雨水プロジェクト』なのでしょう。応募を取りまとめた村瀬事務局長によりますと、水大賞の審査の力点が水循環に置かれていることを強く意識したからだそうです。雨水利用という、ともすれば、雨水を直接利用するという狭い意味に捉えられがちです。しかし、私達の運動は、単に雨水を資源として利用することにとどまらず、生命と文化を育む雨を大切に雨と融合した社会、すなわち『雨水循環社会』を地球規模で実現していくことを目指しています。そのことある意味では、『雨の意識革命運動』といえるかもしれない。そこでこのネーミングが浮かんだそうです。

応募活動の概要は3点です。

- (1) 雨との付き合い方を見直し、地域水循環を再生しながら、水源の自立をはかっていくための雨と雨水利用に関する『雨の事典』の出版
- (2) 21世紀における国内外の水危機を打開していくための雨と雨水利用に関する情報発信基地としての『雨水資料館』の開設
- (3) バングラデシュにおけるヒ素汚染地下水の代替水源確保策としての雨水利用の国際協力・支援及び世界の都市が直面する渇水と洪水を総合的に解決する雨水利用の政策と技術の移転

選考では、私達が地道に地域から地球規模に雨水利用のネットワークを広げ、国内外で着実に成果を上げてきたことが高く評価されました。今回の受賞を契機に、志を新たに、「心は地球規模で実践は足元から」を合言葉に活動を進めていきたいものです。

応募にあたっては、2人の推薦人が必要でした。これを引き受けていただいた奥井登美子さん(土浦の自然を守る会会長)と野田佳江さん(福井県大野の水を考える会前会長)に心から御礼申し上げます。

ここに感謝の気持ちを込めてお二人推薦の言葉の言葉を紹介させていただきます。

「『都市というのは水源の自立をはからなければならない。』この水源自立の構想を聞いたとき目からうろこが落ちた。水源を上流にのみ求めるのではなく、足元の雨にも目を向ける。21世紀の地球の水問題の根源にかかわる構想と実行。こういう会が日本に存在していることに誇りに思い、心から推薦する。」(奥井さん)

* * *

「一番身近な資源が雨水であることに着目し、多くの市民や関係機関に働きかけてきた雨水利用を進める全国市民の会の活動に触発されて私も雨水利用に取り組んでいるが、日々新たな発想がある。このほど雨の事典を刊行されたが、その伸びやかな視点は行き詰まった水問題に新たな活路を開いてくれるだろう。心から推薦したいと思う。」(野田さん)



日本水大賞 ■

各賞	活動の名称	活動主体の名称（敬称略）	都道府県
大賞	革新的雨水プロジェクト	雨水利用を進める全国市民の会	東京
国土交通大臣賞	生き物豊かな福島潟自然学習園の創造と潟の環境保全・普及活動	ねっとわーく福島潟	新潟
環境大臣賞	化学クラブの活動を通じた水質浄化への取り組み	私立広島学院高等学校 化学部	広島
厚生労働大臣賞	比謝川を、かつてのような清流の川に蘇生させる活動	比謝川をそ生させる会	沖縄
市民活動賞	栃木県におけるメダカを指標生物とした水辺生態系の保全活動と環境学習	メダカ里親の会	栃木
国際貢献賞	フィリピン・イフガオ州アシン川流域無灯火村に小規模水力発電を設置する活動	イフガオ・アシン川流域に小規模水力発電を設置する会	神奈川
奨励賞	霞ヶ浦水質汚濁の調査・研究活動	茨城県立土浦第二高等学校化学部	茨城
奨励賞	水資源の有効活用による地球環境共生工場の構築	コニカ株式会社・小田原生産事業場	神奈川
奨励賞	水環境保全に取り組むガソリンスタンド	油藤商事株式会社	滋賀
奨励賞	日本黒部学会の活動を通じた黒部学の構築と普及	日本黒部学会	富山
奨励賞	人と動物の絆の会。イルカを通して川・海の環境保全を目的に人・文化の交流実施	HAB21 イルカ研究会	神奈川
審査部会特別賞	多摩川における癒し体験活動	多摩川癒しの会	東京

■ 青少年研究活動賞 ■

各賞	調査活動	団体名（敬称略）	都道府県
青少年研究活動賞	雄メダカの乳頭状突起を指標にした試験法の評価と内分泌攪乱化学物質の組み合わせの影響	埼玉県立深谷第一高等学校 生物部	埼玉
青少年研究活動特別賞	「メダカ（Oryzias latipes）とカダヤシ（Gambusia affinis）の種間関係」	山口県立厚狭高等学校 生物部	山口

* 「青少年研究活動賞」の受賞者は、スウェーデンのストックホルムで開催される国際コンテスト（2002年8月11日～17日）に参加

雨の料金とは...

□講座：雨水利用と下水道料金を考える！

「あまみず第27号」で、下水道料金の講座を3月初旬とお知らせしていましたが、準備が大変遅れました。この度、2回にわたって勉強会を催します。どうぞ気軽に参加してください。ともに**参加費 1,000円**

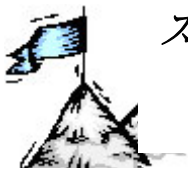
◆第1回 「雨を流さないのに下水道料金はどのように取られるの？」

日時：平成14年6月15日（土）午後1時～3時 場所：早稲田奉仕園（3205-5411・地下鉄東西線「早稲田」下車徒歩10分・同一敷地にあるアバコブライダルホールを目標に）

問題提起者：①倉宗司氏（みずとみどり研究会＝小金井市・雨水浸透枘の設置運動により野川の湧水復活に取り組んでいる）②人見達雄氏（会員＝自宅に2トンの雨水タンクを設置）

◆第2回 「雨水利用を普及するために下水道料金はどうかあるべきか」

日時：平成14年7月6日（土）午後1時～3時 場所：学士会館（3292-5931・地下鉄半蔵門線・都営三田線・新宿線「神保町」下車徒歩3分） 講師：①上村裕二氏（国土交通省下水道部下水道企画課長）



ガンバレ
三宅島

”すみだ環境ふれあい緑日”

へ行こう！

来る 6月8日(土)、すみだ環境ふれあい館及び緑と花の学習園にて、開館1周年記念行事「すみだ環境ふれあい緑日」を開催します。時間は朝 10時から午後 3時まで。雨、緑、リサイクルをテーマに、環境問題を地元住民と一緒に考えていこうという企画で、主催は墨田区です。市民の会でも「雨の部門」の展示の企画制作に携わっており、積極的に参加していきたいと思います。

今回は特に、2000年の噴火から600日もの全島民避難を余儀なくされている三宅島の村役場の協力で、三宅島コーナーが設けられます。ここでは被災実態や島の雨水利用などが紹介されるほか、避難地で栽培したアシタバなどの配布や島名物クサヤの試食も行われます。「緑日」という形をとってはいますが、ねらいは楽しみながら、雨水や地球環境のことを考えることにあります。市民の会にとっても三宅島は、雨水利用を通じて身近な存在です。

雨の部門



- ☂ 市民の会による特別企画展示
(韓国・タスマニア・ドイツ・バングラデシュ雨水利用写真展示、ソーラーヒーターで雨水を沸かして飲む体験コーナー など)
- ☂ 三宅島コーナー(被災実態紹介、雨水利用展示、クサヤ試食、アシタバ配布など)
- ☂ 三宅島のガスの臭い体験 などなど

会場
(緑と花の学習園)

緑の部門



- ✿ 使用済みペットボトルによるハンギングバスケット
- ✿ ハーブの無料配布、ハーブ・ティーのサービス などなど

リサイクルの部門



- ♻ フリーマーケットと模擬店(さんさん工房・地元住民)
- ♻ 清掃事務所による不要品マーケット
- ♻ リサイクルの会によるリサイクル講座
- ♻ ミミズから学ぶ土づくり などなど

すみだ環境ふれあい館へのアクセス

墨田区文花1-32-9 [旧文花小学校]

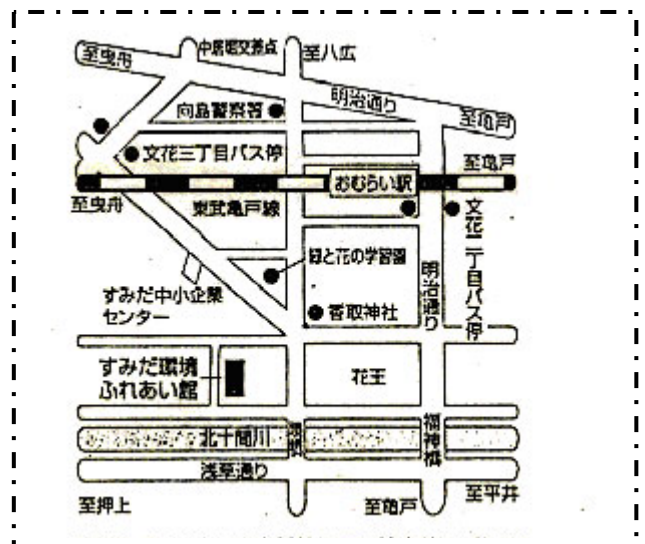
電話：03-3611-6355

開館日：火木金土日 10:00~16:00

交通：東武線亀戸線 小村井駅下車 徒歩10分

JR線亀戸駅から西日暮里駅行きバスで

文花二丁目下車 徒歩10分



ご協力願います！

6月1日(土)、2日(日)に、このイベントに先立ち、雨水資料館の展示物の拡充を行います。バンングラデシュやタスマニアでの現状報告など、数々の事例写真が飾られる予定になっています。手の空いている時間で結構です。お手伝いできる方は、事務局までご連絡ください。



三宅島を知ろう



主な特産品は、アシタバ、きぬさや、スナックえんどう、赤芽さといも、レザーファン、ドラセナ、また海産物も、伊勢エビ、タカベ、ムロアジ、トビウオ、イカ、カキ、トコブシ、テングサ、トサカノリなど種類豊富です。

1983年の噴火では、1ヵ月の水道断水にもかかわらず、普段からの雨水利用で島民は救われました。市民の会も、何回となく雨水利用見学でお世話になりました。しかし、2000年の噴火は、噴火の毒ガスのため、島から全員非難し(直前5月:1,965所帯、3,846人)、現在に至っています。島の人たちに、早く帰れる日が来るとよいですね。(参考：三宅島村商工会ホームページより)

三宅島は、伊豆七島のほぼ真ん中、東京から南へ約180kmの距離にあり、大型客船で6時間、飛行機で約40分。伊豆七島中、大島、八丈島について3番目に大きく、総面積55km²、周囲36kmのほぼ円形で、気象・風土の大変良い島です。年間降水量は2,907mm、平均気温は17.5、最高気温28.5(8月平均)、最低気温6.4(2月平均)です(1971-2000年平年値)。島を一周する都道沿いに5つの集落が点在し、農漁業と観光が共存する豊富な大自然に恵まれ、“自然博物館”とも言われています。

KUSAYAってなあに？



三宅島の特産品です。三宅島は、江戸時代に幕府の天領でしたが、水に乏しく米の替わりに、当時塩が年貢として納められていました。島では、獲った魚を保存するため、干物にすることが唯一の手段でしたが、貴重な塩を無造作に使うことは許されていませんでした。窮地の一策として、一度作った塩水をつけ汁として何回も繰り返し使うことが始められ、これが現在のクサヤ汁のはじまりであると言われていいます。その塩水には天水(雨水)が使われていた

そうです。

一度使用したクサヤ汁はしばらく休ませて発酵させます。また、長い間使わない場合は魚の切り身を入れ維持します。これはアミノ酸の発酵によるものですが、旨みのもとには長い間に培った特異な菌を植え継いできたからなのです。

クサヤは他の干物に比べて長くもちます。これはクサヤ汁中の菌が抗生物質を生産するためであると言われ、傷口にクサヤ汁を使ったりもします。現在、数軒の製造業者が使っているクサヤ汁は、数百年前からのものもあります。現在、島民のいない島でどうなったか心配です。

クサヤの特徴は何といてもその強烈な臭いです。「縁日」当日の中庭で、存分にこの臭いを味わってください。(参考=インターネットの池田信道・藤井建夫さん資料より)

ASITABAってなあに？



「アシタバ」は、伊豆七島に多く群生し、成長がとても早く、摘み取った翌日には、もう青々と若葉が伸びているところから、明日葉と言われています。

アシタバの味は菜の花やセリに似ており、独特の苦さがあります。ミネラルビタミン、葉緑素などがたっぷり、滋養強壮にも良いと言われていいます。健康野菜としても脚光を浴び、生葉で島外に出荷されたり、粉やお茶として加工されて広く普及し、伊豆七島の一大産業にまで発展しています。



➤レインファーム(雨農場)を訪ねて(オーストラリア・タスマニア)

1月5日、村瀬誠、佐藤清、ケイトリン・ストロネルさんの3人は、バングラデシュにおける飲用地下水のヒ素汚染対策としての雨水ボトル配給事業を立ち上げるための準備として、雨水をボトルにして販売しているオーストラリア・タスマニア島を訪れた。

雨は、瓶詰めする工場とは別の場所、島の西北の先端、ケープ・グリム(年間降水量は1,200mm、雨季は6月～9月)で集めている。北部のバーニーから車で3時間近く、北西の岬の近くにそれはあった。看板に“Rain Farm”とある。雨水の集水を英語で“Rainwater Harvesting(雨水を収穫する)”というから、うまいネーミングである。

集水の仕組みはいたって簡単だった。なだらかな傾斜地にゴムシートで被覆(集水面積は約2,000㎡)し、その雨水を集める。集水のポイントはまず、南西風のときの雨だけを集めること。南緯40度は陸地といえばニュージーランド、タスマニア島、南アメリカのチリ、アルゼンチンと、ほとんどが海である。したがって、南西の風に乗ってくる雨は、大気汚染の影響が極めて少なくとてもピュアな水なのである。オーストラリア大陸からの雨は集めない。

また、降り始めて20分間の雨(量にして1万リットルくらい)は使わない。その後の雨を40トンの蓋のないタンクに集める。運良くタンクに雨水がたまっていたので、飲んでみるととてもおいしかった。雨を集めるゴムシートは、週3

回、ブラシで定期的に清掃している。

タンクがオープン型なのも、清掃が人力なのも、汚れのチェックと管理は自分の目で確かめるのが一番とのこと。なるほど“シンプル・イズ・ベスト”である。いったんタンクに集められた雨水は、ポリエチレン製の17トン5基と23トン9基の水槽に溜められ、瓶詰め工場に運ばれる。そこで三段階のろ過処理した後、紫外線消毒して、ボトリングされる。

案内していただいた雨水瓶詰め企業“タスマニアアンプロレストウォーターズ”のワーレンさんの話では、今年からカンタス航空のファーストクラスとビジネスクラスでは、コルク栓付きガラスビンに入った雨水が提供されているという。このタスマニアの空と日本の空はつながっている。世界中の空をきれいにして、誰もがおいしい雨水を飲めるようにしたいものである。

当会では、今回のタスマニアでの調査結果を活かし、バングラデシュにおいて世界初の「持続可能な雨水ボトル配給事業」「スカイウォータープロジェクト」を開始する。(村瀬)

試飲できます 連休明けから、雨水資料館でレインファームで獲れた雨が飲めます。味わってください。

➤スカイウォータープロジェクト始動！(バングラデシュ)

3月10日から5日間、雨水配給事業立ち上げに向け、村瀬、徳永、佐藤清、今関、柴さんの5人が、サンジブ・バルワさんの案内でバングラデシュを再訪した。前回、アオラッド・ホセインさんが、雨季の雨水を瓶につめ、乾季に飲料水として安く提供する事業を提案され、今回、そのパイロットプラントの準備のためである。



ホセインさんは、すでに名古屋のNGO「バングラデシュを支える会」の援助で、乳牛の世話をする未亡人を雇い、彼女たちの経済的支援をするボランティア事業をしている方で、2つの牧場を所有している。

ダッカから南に48kmの村にあるプラント建設する候補の牧場を訪ねた。牧舎1棟が1.5mくらい盛土した上に建っていた。雨季の洪水に備えて盛土は欠かせない。どこからともなく村の子供や大人が集まってきて、私たちの一挙

手一頭足を見守った。すぐ近くに赤マークでヒ素汚染を示す井戸がある。この人たちに雨水を飲んでもらえるようになればと思った。

ホセインさんの友人の建築家に、雨水プラントの設計・建設費用の見積りを依頼した。また、バングラデシュ工科大学の教授にも水質検査の支援を頼んだところ、NGO Forum(バングラデシュ全域で衛生的な生活と安全な飲料水の確保・普及を支援するNGOの一つ)と連携して協力をいただけることになった。☛

NGO Forum は別の NGO と共同で、コミラ州で雨水による水道配給事業を行なおうとしている。そこを見学した。雨季の8ヵ月間は雨水を、それ以外はヒ素汚染のない浅井戸水の水を水源

に、付近の集落 13 ヲ所に共同水道として提供するものである。まだ工事中あったが、地域住民の意識も高く、成功するだろうと確信した。(柴)

★ ワールドサッカー in ソウル with 雨水 (韓国)

1月30日から3日間、村瀬、徳永、佐藤清さんの3名がソウル大学で開催された韓国雨水利用研究会の雨水セミナーに招かれた。



ワールドサッカーに向けて竣工したばかりの仁川文鶴サッカー場では、韓国の環境大臣の肝いりで雨水利用が導入され、グラウンドの芝への散水に利用される。まだまだ雨水利用は始まったばかりであるが、専門家たちの雨水利用に対する熱意が伝わってきた。

ソウルの町は、東京の渋谷のように若者たちの活気が感じられる。徳永さんはミニスカートが新鮮だったようだ。何よりも、キムチがおいしかった。おみやげに持ち帰ったが、日本での味は今いち…。風土が作った食を実感した。(徳永さんの談・朝)



「雨の事典」重版される！

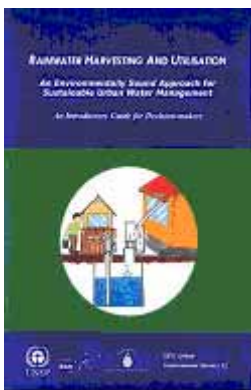
昨年の12月に出版された「雨の事典」は、会員の方々の積極的な販売活動もありマスコミにも数多く取り上げられ、順調な滑り出しです。多少の手直しをして、今年4月から第2刷が書店に並び始めました。

「雨の事典」の内容をさらに高めていくセミナーも企画されています。雨の楽しみがさらに増えそうです。

国連の雨水利用パンフレットできる
— 当会と共同作成 —

この表紙、どこかで見たことがありますか。このイラストは8年前、雨水利用東京国際会議の際に会員の新井久子さんが描いたものです。

「雨水の集水と利用」と題したこのパンフレットは、丸1年かけて当会と国連環境計画・国際環境技術センター (UNEP/ IETC)、墨田区が共同して作成し、3月にできあがりました。主として雨水利用の政策と世界各地の事例が紹介されています。2,500部のうち500部は国連ルートで世界の国際機関に紹介されます。英文ですが、ご希望の方は事務局まで(送料込みで500円)。



目詰まりしない浸透性舗装の技術
— 安藤さんのお仕事拝見 —

最近、局地的に降る大雨はヒートアイランド現象が原因ではないとも言われています。雨水をためるだけでなく、浸透させられるところではできるだけ地面に戻すことが原則です。しかし、せっかく浸透性舗装としても目詰まりして役目を果たしていないものも多いのです。

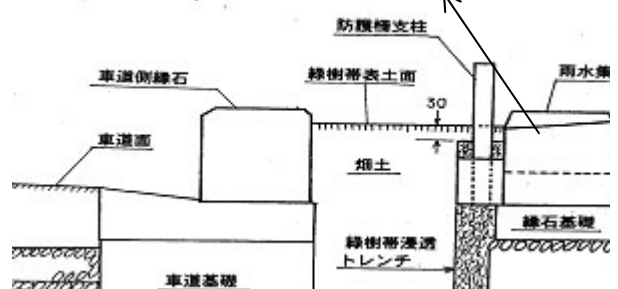
会員の安藤勝治さんは、小金井市でタイル舗装の歩道の地下浸透モデル実験を行っています。大雨が降ると、浸透性舗装であっても歩道の雨は、車道側の下水道に流れ込んでしまいます。これを完全に歩道側でためて地下浸透させる技術を安藤さんが考案しました。*雨水案内溝のある緑樹帯の縁石で雨水を浸透トレンチ構造とした緑樹帯に導入し、植物の根により浸透性を高めるもの。

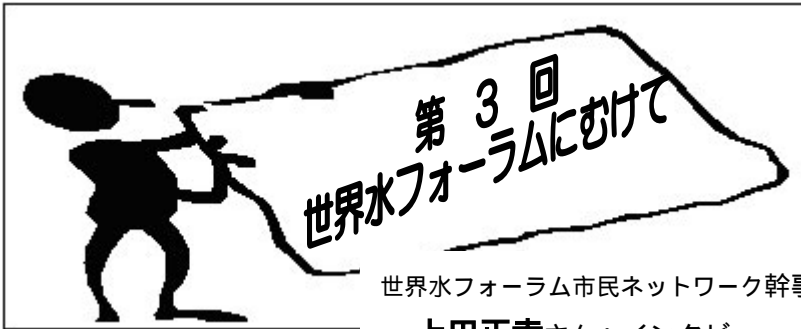
結果は順調で、2番目の場所を選定中とか。(朝)

*雨水案内溝⇒



(緑樹帯断面図)





世界水フォーラム市民ネットワーク幹事

上田正幸さんへインタビュー

2003年3月、第3回世界水フォーラムが京都、大阪、滋賀において開催されます。京都での受け皿となるNGO「世界水フォーラム市民ネットワーク」で活動をされている京都・雨水利用をすすめる会代表の上田正幸さんにお話を伺いました。

世界水フォーラムは、3年ごとに行われます。第1回は1997年にモロッコのマラケシュで、第2回は2000年にオランダのハーグで開催されました。今回のテーマは非常に多彩で、現在、分科会も150ほど手が挙がっています。基本的な内容は「水の自由化」で、水に関わる企業に有利な議決を目指しています(?)。ハーグでの会議は企業よりのため、NGOと大きく対立するものとなりましたが、今回は最初からNGOと仲良くやろうということになっているそうです。

「世界水フォーラム市民ネットワーク」は、2001年秋に立ち上がりました。現在、3つのことを考えているということです。1つめは、京都・雨水利用をすすめる会が作成した『琵琶湖・淀川流域の水循環を案内する 雨水くんの冒険』での環境教育。2つめは、京都市とのパー

トナーシップ事業としてすすめていく雨水利用連続セミナーです。市民、行政への啓発を目的とし、6月から5回ということで企画中です。3つめは、本番での雨水利用の分科会の開催です。これについては、雨水利用を進める全国市民の会、関西雨水利用を進める市民の会などと協働で実現したいと考えています。

行政では、京都においては、2002年1月に京都府、京都市、京都商工会議所などが実行委員会を設立しました。滋賀県、大阪府も知事を委員長にして組織づくりをしました。しかし、まだ中身が伴っていないようです。

既に1年をきっているのに、残り時間に余裕があるわけではありませんが、世界水フォーラムにむけて開催するイベントは、だんだんと盛り上がりを見せているということで、ますます楽しみになってきました。(笹)

MICHIKUSA 雨降り星・ヒアデス



春は、星の数が冬ほど多くありません。これは地球が春に見上げる星空が、銀河の薄い方向にあたるからです。

おうし座の赤い1等星アルデバランの近くに、「V字型」の星の配列があります。これが、ヒアデス星団と呼ばれ、おうしの顔に位置します。地球から最も近くの140光年の距離にあります。

ギリシャ神話では、ヒアデスは巨人アトラスの娘で、同じおうし座のプレアデスとは異母姉妹だとされています。兄のヒアスが猪に襲われて死んでしまったのを嘆き悲しんでいるヒアデスを、大神ゼウスが見て天に上げてしまいました。

ギリシャ地方では日の出前にヒアデスが上がってくるころ雨季に入ります。雨をヒアデスの涙と考えたのでしょう。(「雨の事典」P121参照)

「雨の事典」の著者3名が4月2、9、16日の東京新聞夕刊の「生きる心のページ」の欄に連続して記事を書きました。しかし、この欄を担当していた唐木清志さんが、最初の記事が載る3日前に急遽されました。唐木さんは水俣病を社会的認識を得る前から問題視し、琵琶湖の水質汚染問題にも大きくかかわってきた方です。ご冥福を心から申し上げます。(レインドロップス)

編集後記

「あまみず」にもIT化の波が押し寄せ、原稿は全てパソコンで作成することになりました。初めての試みなので編集長の負担が増えることが予想され、各委員からの原稿提出の締め切り厳守が確認されました。しかし・・・早速遅れてご迷惑をかけた。内容はともかく、締め切り厳守! じゃだめですよ。(K)C

編集に参加してはや3年、インターネットの普及とともに情報の収集は非常に楽になりました。一方、単純な転記ミス、内容確認の怠慢によるミスなど、思わぬ落とし穴が待ち受けていたのです。反省...(宮)。

糸賀さんを頼りになんとかここまでやってきましたが、もう、自立しなければいけないと感じています。あたたかく見守ってください。(笹) 敏腕編集長の糸賀幸子さんが、雨の事典にのめり込んでしまいました。ライフワークとしてさらに研究を続けたいと、広報部を去られました(恐ろしい執念?)。そのパワーで朝はフラフラ~と入ってしまったのです。紙面が変わったかなあと気づかれた方もあろうかと思えます。ヨロシーク(朝)ご